

目的 身体形状の年代による相異をとらえる事はからだの大きさをとらえるのと同様、衣服設計上重要な事項と考えられる。本研究では、高齢者婦人の体型把握を行うと共に、ダーツ量やダーツ線の引き方に関係をもつ体表角度に注目し、成人女子との比較を行って年代別の特徴をとらえることを目的とした。

方法 高齢者の体型を年代別に比較検討するため、19歳～79歳にわたる成人女子672名のシルエット写真を資料として高さ11項目、厚さ17項目、体表角度8項目を測定した。測定にあたり足長の1/2の点を基点として床面に垂直な線を引いて体軸線とした。体軸線から腹側と背側に水平距離を測定して算出角度7項目を求め、写真撮影時に計測した体重を加えて項目総数44項目で分析した。なお、年代区分を20代～70代とし19歳の資料は20代に含めて解析した。

結果 年代が高くなるにしたがって角度の大きくなる項目は、腹部上部角、腹部下部角であり、角度の小さくなる項目は腰部後部角である。胸部上部角はあまり変わらない。背部上部角、背部下部角は20代が最も小さい。高齢者の体表角度のばらつきは大きい。体表角度と算出角度との差が顕著なのは背部上部で、ダーツ設計において曲線を必要とする部位である。形状の把握のために高さや厚みの項目を身長比に換算して44項目で主成分分析を行うと、FAC1に幅と高さの割合の因子、FAC2に前後の方向性の因子、FAC3に上半身と下半身のバランスの因子、FAC4に高さの大きさの因子、FAC5に腹部上部角と背部下部角の因子が抽出された。